



会長 古賀 健一郎
副会長 古田 和彦
書記 古賀 健一郎
会計 大高 治
直前会長 古田 和彦

国際会長 (IP) K.C.Samuel (India)

“Into the next 100 Years with FELLOWSHIP & IMPACT”

「フェロウシップとインパクトで次の100年へ」

アジア太平洋地域会長 (AP) Chen Ming Chen (Taiwan)

“Elegantly Change with New Era”

「新しい時代とともに、エレガントに変化を」

東日本区理事 (RD) 佐藤 重良 (甲府21)

“Let's act now for the future”

「未来に向けて今すぐ行動しよう」

湘南・沖縄部部长 (DG) 小松 仲史 (厚木)

「楽しく・元気よく・前向きに」 副題：入りたくなるワイズにしよう

横浜クラブ会長 (CP) 古賀 健一郎

「他者と共に生きる ～ 平和を求めて」

“Live together in harmony ～ for Peace”

監事 松島 美一
ブリテン 伊藤 誠彦
担当主事 青木 英幸

<今月の聖句>

押川 幸男

「正義を洪水のように 恵みの業を大河のように
尽きることなく流れさせよ。」

(アモス書5章24節)

今月のひとこと

『安倍元首相銃撃事件に思う』

齋藤 宙也

安倍元首相の銃撃事件は、衝撃であった。

良くも悪くも、被害者は、国民のほぼ誰でも知っていると考えられる人物。それゆえに、他人事にはなりにくい。そして、白昼堂々と、しかもかなり周囲に人がいる中で、背後の隙を突いて一瞬で攻撃するという手段の恐ろしさ。

当初、政治家が殺されたということで、安倍氏と思想信条が相いれない者による言論封じという構図がうたわれた。

民主主義の基本、言論の自由の基本的論理は、「君と意見は違うが、君がその意見を述べる権利は命をかけてでも守る」であろう（これがヴォルテールの言によるものなのかどうかは、争いがあるらしい）。命をかけて守るところか、相

手の命を奪って言論を封じることが、どのような政治的立場であれ許されない。完全に、デモクラシーを葬った五・一五～二・二六事件の再来と言ってよい（拙稿の読者の中には、この事件そのものを直接御存じで、戦前と重ね合わせた方もいらっしゃるかもしれない）。

ここまでは、民主主義国の国民を名乗るのであれば異論はないであろう。ただ、現在報じられている被疑者の供述では、ある宗教団体によって家族が崩壊したことで、いつしか安倍氏を逆恨みして犯行に及んだなどと言われている。そうになると、民主主義の破壊をもくろむというより、端的に一種の拡大自殺として捉える考え方が出てきている。被疑者の背景についての軽々な論評は、拙稿では控える。

しかし、本件については、言論の自由などとの関係で残された問題点が幾つかある。

まず、このような動機が提示されてもなお、本件は反安倍勢力のせいであるという主張がばっこしている点である。百

押川ワイズ 今月の聖句について

8月の第一日曜日は、平和主日として守られている教会も多いと思います。

●その礼拝の中で、「このこどもたちが」（讃美歌21 371番）も歌われています。

●3節には、イザヤ書、ミカ書、アモス書などの預言書の言葉が引用されています。

●今こそ、平和や正義が求められている時代です。このみ言葉を深くかみしめながらこの8月を過ごしましょう。

<2022年7月例会実績>

在籍者	出席者	出席率	B F	
12名	メ 9名 メネット 0名 コメット 0名 ビジター 2名 ゲスト 1名 合計 12名	88 % (メーキャップ 2名を含む) 前月修正 出席率 %	今月分 切手 現金 年度累計 切手 現金	0g 0円 0g 0円

<8月の行事予定>

EF/JEF

日	曜	時間	行事内容	場所
5-7	月		エイズ文化フォーラム	Zoom
25	木	18:30	横浜クラブ第一例会	廣東飯店

歩譲って、黒幕が現れ、その黒幕がそうだったというならまだ分かるが、現状、そのような根拠は全くない。言論による批判と暴力は全く別次元の問題であり、たとえ反安倍の言論が広く社会に流れていたとしても、それを暴力の原因にするのは誤りである。いざというときに被被害者を批判していた人たちが連帯責任を問われるようであれば、権力批判はできなくなる。これは、明らかに上記基本的論理に反するものである。

テレビで報じられた街の声の切り取り方も、気掛かりである。「いい人(立派な政治家)だったのに残念」という声だけを集めている。逆に、「私は安倍さんの政治には反対でしたが、このようなことはあってはならない」などという声は、(全ての報道を見たわけではないが)報じられない。これはこれで、危険なことである。街の声を反対解釈すると、「良くない政治家」であれば撃たれてもよいかのような誤解を招くおそれがある。それは違う。

安倍氏が良い政治家だという人のほとんどは、その反対相として、民主党政権の鳩山由紀夫氏は悪い政治家であったと評価しているであろう。しかし、ならば、鳩山氏が立憲民主党候補の応援演説中に狙撃されてもよいのであろうか。鳩山氏であろうと、安倍氏であろうと、等しく、狙撃されることがあってはならない。それが上記基本的論理の帰結だが、マスコミの街の声の出し方では、この点が伝わらない。

結局、また民主主義の侵害という線に戻ってしまったが、いずれにせよ、どうすればこのような事件の根を断てるのか。ワイズメンズクラブに引き直せば、「一党一派に偏らない正義を追求する」精神が、改めて必要とされているように思われる。

<7月第一例会報告>

伊藤 誠彦

日時 : 7月14日(木) 18:30~19:40
開催方法 : ハイブリッド例会
出席者 : 青木、大高、古賀、佐竹、古田(横浜中央Y)
秋元、伊藤、齋藤、松島(Zoom)

ゲスト : 瀬谷(横浜中央Y)

ビジター: 若木一美(横浜とつか)、日下部美幸(鎌倉)(横浜中央Y)

7月例会は2021-22年度総会及び2022-23年度のキックオフミーティング。古賀会長による開会点鐘、挨拶に続き、ワイズソングとワイズの信条を唱和、佐竹ワイズによる聖句朗読とお祈り。

ゲスト・ビジター紹介、定足数確認の後、古賀議長のもと総会に入った。

第1号議案は、2021-22年度事業結果報告。古田ワイズより事業実績と例会出席者等の報告があった後、古賀会長が「コロナ禍にもかかわらず、『横浜YMCAと横浜クラブの更なる連携の強化』をテーマにシリーズで卓話を開催し、Zoomも活用して意義ある例会、活動を展開することができた」と活動実績を総括された。

第2号議案は、各事業委員からの事業報告。特記事項はなし。

第3号議案は、会計決算報告。大高ワイズから会計報告があった。2021-22年度は支出超。

第4号議案は、2022-23年度のクラブ役員、事業委員の確認。会則に基づき2月例会で予め選出されていた役員等が確認された。



第5号議案は、2022-23年度運営方針と事業計画。古賀会長より横浜YMCA 専門学校で学ぶ留学生との交流を図り、支援をすることを基本方針とすることが語られた。

第6号議案は、予算計画。大高ワイズより説明があった。各議案は挙手により賛否を確認、全ての議案は承認された。キックオフミーティングでは8月例会は25日に懇親会を兼ねて開催することが確認された。最後にビジターの若木ワイズと日下部ワイズに一言を頂いて7月例会を終了した。

「2021-22年度 第三回部評議会報告」

古田 和彦

- 開催日時・場所
2022年6月25日(土) 15:00~16:15 於 横浜中央YMCA 501号室
- 26名の出席(内、委任状は11名)
*Zoomに入れず欠席者あり
- 全体司会は部書記板崎淑子(鎌倉)、議長は若木部長
- 議案とその採決結果
1) 第1号議案「CS支援金について」 日下部地域奉仕・YMCA サービス事業主査に代わり若木部長から次の説明と提案がなされた。

★ 強い義務感をもとう 義務はすべての権利に伴う ★

厚木クラブより期限内に申請があった「るんるん らんらんうたごえサロン」が適当ではないとして、代わりに期限後に申請された「人形浄瑠璃支援 1万円」への支援を行いたいと提案があった。代わりの提案が期限後であるため認められないとの意見があり、採決の結果、否決された。

2) 第2号議案「2022-2023年度部長方針と事業計画の件」小松次期部長から次の提案がなされた。概要は以下の通り。

- ・部長主題 楽しく・元氣よく・前向きに
- ・副題 入りたくなるワイズにしよう
- ・基本方針(要約) 会員増強と同様、退会者を少なくしたい。そのために相互の交流・仲間づくりに努めたい。そのうえでYMCAへの奉仕を行いたい。

- ・事業計画(概要) 評議会(7/23、11/26、6/24の3回) 部大会(10/22) その他東日本区、横浜YMCA 関連行事が資料により提示された

協議の結果、原案通り承認された。

3) 第3号議案「次期部役員」小松次期部長から、次の通り提案があり、異議なく承認された。

<部長>小松仲史(厚木) <次期部長>黒川勝(金沢八景) <直前部長>若木一美(横浜とつか) <書記>板崎淑子(鎌倉) <会計>日下部美幸(鎌倉) <事業主査>地域・Yサ 日下部美幸(鎌倉) 会員増強 佐藤節子(厚木) 国際・交流 古賀健一郎(横浜) ユース 鈴木茂(横浜つづき) <メネット連絡員>若木祥子(横浜とつか) <エクステンション委員長>辻剛(横浜つづき) <監事>峯尾舜(金沢八景・部則により2年目)

5. 報告・連絡

若木部長から6/4.5 東日本区大会が行われた。次期理事は佐藤重良ワイズ(甲府21)である。次いで各事業主査、各クラブ、YMCAから報告があった。横浜クラブからは、当年度Zoom使用により毎月例会を開催したこと、YMCA支援について学び直し、クラブとしては日本語科の留学生を中心とした外国人支援に注力したいと考えていることを報告した。

6. 監事講評

峯尾監事から、次の講評があった。この1年コロナ禍のなかにも各クラブが滞りなく運営されたこと、3回の評議会も簡略に短時間終了していることを評価する。一方、会議に出てくる人の顔ぶれが同じ人ばかりなので、新しい人を役員に加える努力をしてほしいとの要望があった。

7. 若木部長の閉会点鐘で終了した。

横浜クラブ出席者: 青木、古田(会場)、古賀、大高(委任状)

「2022-23年度 第1回部評議会報告」

古賀 健一郎

日時: 2022年7月23日(土) 15:00~17:15

会議方法: 湘南とつかY及びZoomのハイブリッド方式

出席者: 出席者 33名(会場 12名、Zoom 11名+委任状 10名)、定足数は17名。

第1回部評議会は、定刻に開始。小松仲史部長による開会点鐘、ワイズソングは割愛し、ワイズの信条を全員で唱和。阿部部担当主事による聖書朗読と開会祈祷。小松仲史部長挨拶に続いて板崎淑子部書記により定足数の確認を経て議事に入った。

①下記議案が承認された。

★第1号議案 2021年度事業報告(若木一美 直前部長より説明)

★第2号議案 2021年度会計決算報告。(岡進 2021年度部会計より説明に続いて峯尾舜監事より監査報告)

★第3号議案 2022年度行事予定。(小松仲史部長より説明)特に、YMCA-ワイズ合同新年会は実施しないとした。部長公式訪問の日程は、クラブごとに調整して決定する。

★第4号議案 湘南・沖縄部 部大会開催(小松仲史部長より説明)・日時 2022年10月22日(土) 15:00~17:00・会場は湘南とつか YMCA・講師 日本市民安全学会副会長 理事 富田俊彦氏(あさま山荘事件では警察官として事件解決にのぞまれた)

★第5号議案 2022年度会計予算案(日下部美幸 2022年度部会計より説明)

★第6号議案 「次次期部長」に久保勝昭氏(横浜つるみクラブ)を選出。

★第7号議案 エクステンション委員会、委員長、各委員及び関連する承認済み諸議案の任期延長の件(辻剛エクステンション委員会委員長より説明) 現在のエクステンション委員会の任期は東日本区のChange! 2022キャンペーンの期間に合わせ2022年12月末となっている。一方、湘南・沖縄部のエクステンション委員会はコロナ禍の中、地道な努力により横浜YMCAとの協力体制も確立し、これからという状況であり、部の会員増強計画の目標達成の為、その任期を2023年6月末まで半年延長したい。本提案について賛否両論あったが、採決を行い、賛成15名(委任3名含む)、反対4名(委任2名を含む)で承認された。

②板崎淑子新ワイズ設立委員より下記の報告があった。部エクステンション委員会では新ワイズ設立を目指して、YMCAかわさき保育園で保育園の子どもたちや卒園児、そのご家族が気軽に集まって本を読んだり、お話をしたりする居場所作りを、横浜YMCAとの協力で進めている。そこで、湘南・沖縄部の皆様の協力を願いたい。乳幼児向け絵本の寄付・居場所の名称を募集(8月末まで) 川崎地域でのワイズやYMCA、ボランティアに関心のある方の紹介…等。

③峯尾舜監事より下記講評があった。

「部長と書記、会計は部長と同グループからの選出がスムーズに業務が行われると考える。監事の任期も2年であるが、監事も部長と同じグループからの選出で1年任期がよいと思うので、新部長体制で検討していただければ……。」

④最後に、小松部長の閉会点鐘によって会を終了した。

横浜クラブ出席者: 古賀、古田(会場)、大高(委任状)

第二例会報告

古田 和彦

日時: 7月28日(木) 18:00~19:00

場所: Zoomによる開催

出席者: 青木、伊藤、大高、古賀、古田

協議・確認・検討事項

1. 行事予定

・資料により9月までの予定が示され、了承した。

2. 協議・報告事項

★ 強い義務感をもとう 義務はすべての権利に伴う ★

1) 8月、9月、10月横浜クラブ例会予定について
 ・8月25日(木) 18:30~20:30 於: 廣東飯店 会費: 5500円。納涼例会とする。入会を検討しているゲストを招待する。コロナに関しては国・県・市から制限がある場合はそれに従う(中止もある)。

・9月8日(木) 18:30~20:00 於: 横浜中央 Y+Zoom <卓話講師> 横浜 YMCA 総主事 佐竹博ワイズ
 内容は、連続で取り組んできた「ワイズとYMCAの更なる連携強化を考える」シリーズのまとめとする。小松湘南・沖縄部長の公式訪問を依頼するほか、他クラブにも案内する。

・10月13日(木) 15:00~16:20 とするが、留学生の都合によっては日程・時間の変更も考える。
 <内容>「日本語スピーチコンテスト参加留学生との交流のとき」とする。

青木ワイズ(YMCA 学院専門学校校長)と十分に打ち合わせて準備していく。

2) 第9回横浜 Y 専門学校スピーチコンテストについて

- ・2022年9月2日(金) 10:00~12:00
- ・於: 横浜中央 YMCA9階チャペルとするが、スピーカー、審査員、関係スタッフ以外はオンライン参加
- ・当クラブ審査員: 古賀会長に決定した。当クラブ支援金: 3万円、なお、村田製作所協賛金3万円は従来通り受けられる。
- ・本プログラムについて古賀会長から区・部へのアピールを行う。
- ・スピーカーはマスクを外して話した方がよいと考えるので、その旨検討を依頼した。

3) 広報リーフレットの原案を古田ワイズが検討することになっている。進めてほしい。なお、従来のリーフレットをPDFで古賀会長から送付する。

4) 8月ブリテン計画を提案通り承認



担当主事 青木 英幸

7月7日に、国際情報ビジネス科の学生と YCJ サポーターとの交流イベントの「トークフォークダンス」を実施しました。トークフォークダンスとは、2重の輪を作って向かい合い、与えられた様々なお題について、1対1で1分間、自分の考えを相手に話します。その後、フォークダンスのように順番に相手を替え、たくさんの人と対話をします。学生たちは、普段は頭の中で日本語の文ができてから話しますが、今回は与えられたお題に対し、すぐ日本語で話さなければならぬので難しかったと思います。参加した学生からは、「たくさんの方々とお話ししながら交流ができ、とても有意義かつ楽しかったです」と言っていました。ボランティアの方々からは、「独りで知らない国で勉強しながら生活しているのは、想像以上の苦労や努力をして、とても勇気のある学生たちだと感じています。こういうチャンスがあれば、ぜひまた参加したいと思います」というコメントをいただきました。

7月14日に、日本語学科では、日頃は日本語能力のレベ

ル別クラスで学んでいる学生たちが、縦割りのグループ活動を通して、普段は一緒に勉強しないクラスの学生とも交流し親睦を深めることを目的としたウォークラリー(関内・みなとみらい地区の散策)と横浜港観光船(マリーンルージュ)

乗船を行う「横浜散策」を実施しました。①象の鼻パーク、②横浜海岸教会、③大棧橋の3つのフォトポイントの中



から1つ選び、フォトコンテストのために好きなポーズで集合写真を撮影し、交流を深めました。

作業療法科の学生たちは、7月25日から30日迄の5日間で前期学期末試験を実施しました。夏季休暇前にオンラインでの参加となりますが、「AIDS文化フォーラム in 横浜」に全員の学生が参加する予定です。

コロナ禍にあって感染予防に留意しながら、横浜 YMCA 専門学校がもう1つのカリキュラムとして大切にしている学校行事を、神様に守られ実施できていることを感謝いたします。

8月例会プログラム

- 日時: 8月25日(木) 18:30~20:30
 場所: 横浜中華街廣東飯店
 司会: ワイズ
1. 開会挨拶.....古賀会長
 2. お祈りと食前感謝.....古賀会長
 3. ゲスト・ビジターの紹介.....古賀会長
 4. ビジネス.....古賀会長
 5. 懇親会
 7. **Happy Birthday** 押川沢江、古賀健一郎、田口務
- 例会報告: 秋元ワイズ

9月の行事

日	曜	時間	行事内容	場所
2	金		スピーチコンテスト	Zoom
8	木	18:30	横浜クラブ第一例会	ハイブリッド
22	木	17:00	横浜クラブ第二例会	Zoom

当ブリテン及び横浜ワイズメンズクラブに関するお問い合わせは、YMCA 青木英幸にご連絡下さい。
 メール aoki_hideyuki@yokohamaymca.org
 電話 045-661-0080